

ダニエル
聖徒伝 221

信仰の痕跡を 世に残そう

ダニエル書11章36～12章

主の日 神の王国

アウトライン

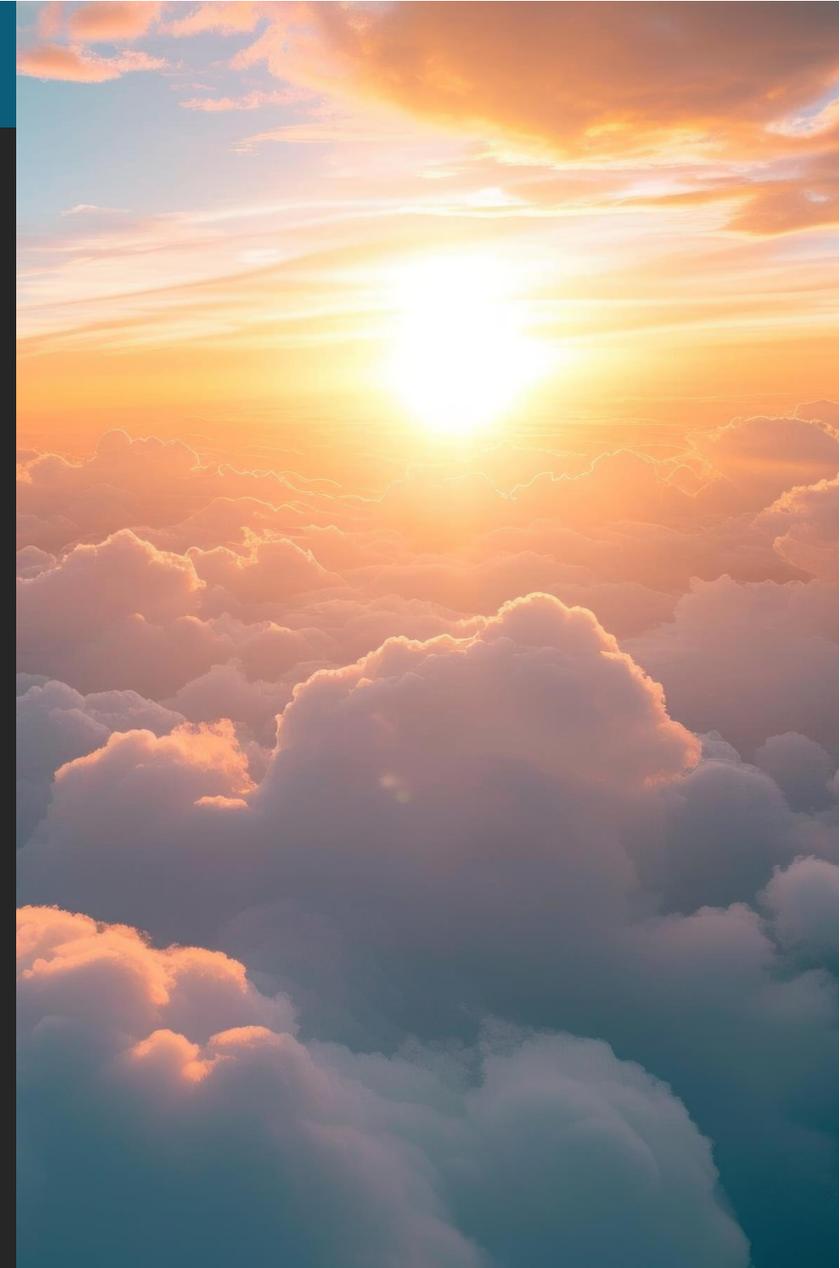
0. イントロダクション

I. 反キリスト 11章36～45節

II. 神の王国 12章

III. まとめと適用

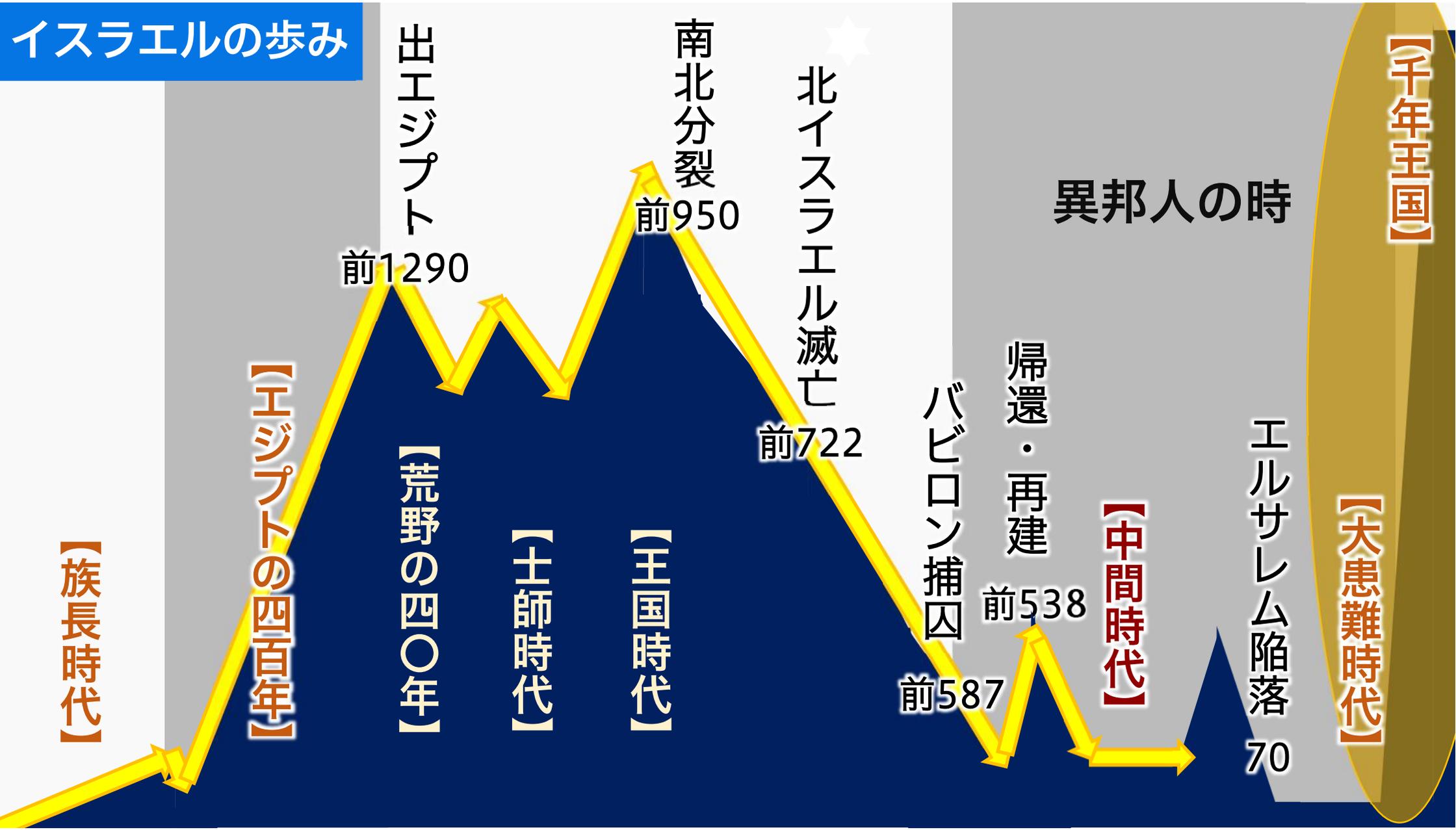
私の信仰の痕跡を世に残そう



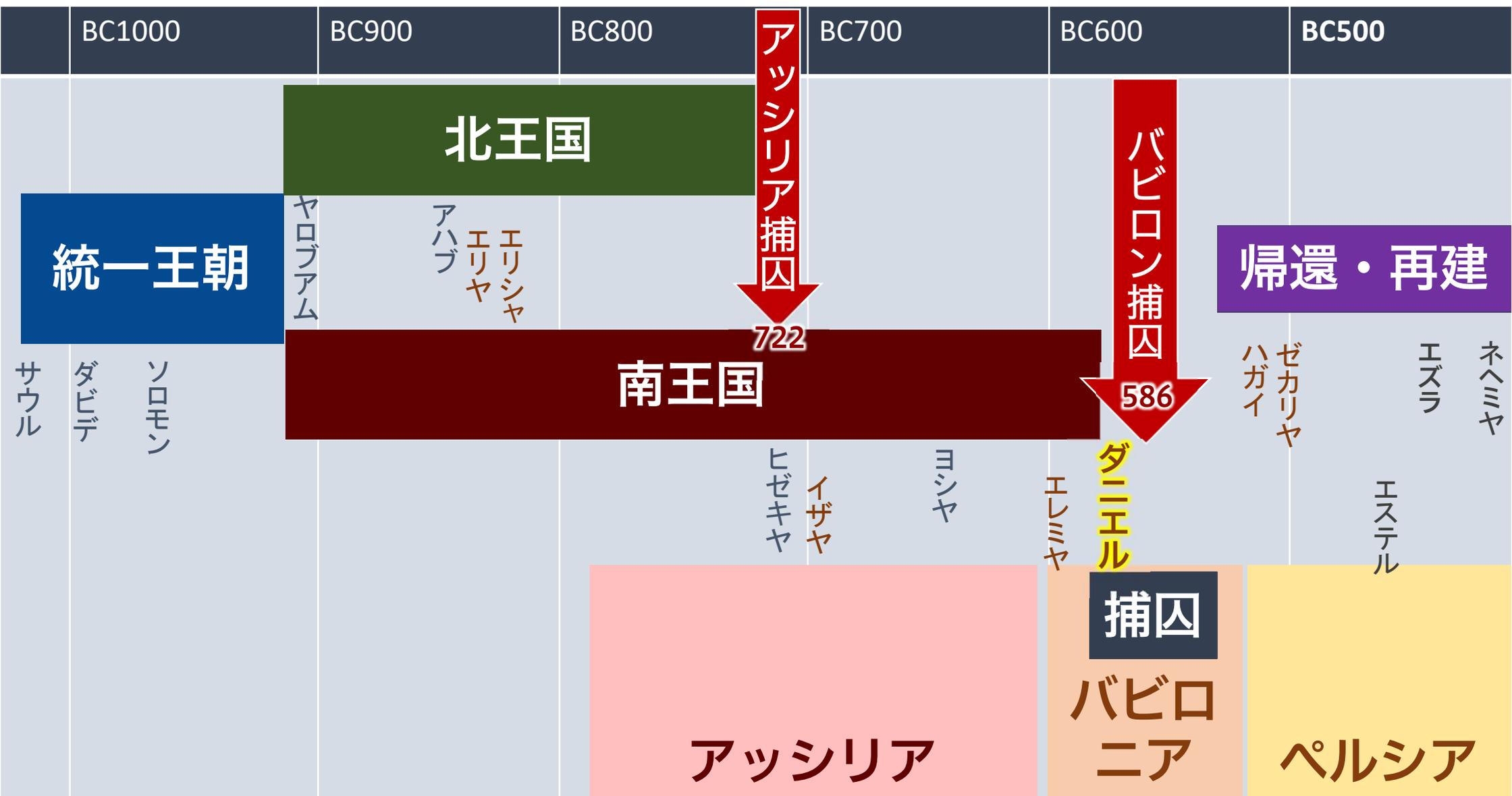


0. イントロダクション

イスラエルの歩み



イスラエル王国史

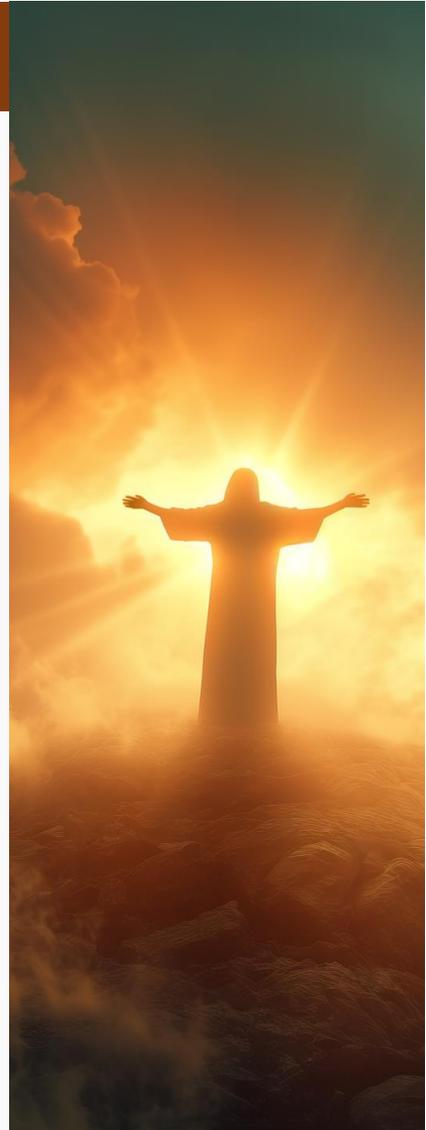


ダニエル書の構成

章	記述	言語	王国	王	内容
1章	歴史	ヘブル語	バビロニア	ネブカドネツアル	ダニエルの召命
2章		アラム語			つぎはぎの像
3章					炉に入れられた3人
4章					ネブカドネツアルの回心
5章					ベルシャツアル
6章			ペルシア	ダレイオス	ダニエル、ライオンの穴へ
7章	預言		バビロニア	ベルシャツアル	四頭の獣
8章		ヘブル語			雄羊と雄山羊の幻
9章			ペルシア	ダレイオス (キュロス)	70週の預言
10章					天の御使い
11章					帝国の変遷
12章					終わりの時

11章36～12章の背景

- ペルシアのキュロス王の勅令により、捕囚から解放。しかし、帰還した民はわずかで、神殿再建も頓挫。
- イスラエルをとりなし、3週間祈り続けたダニエルに天使が現れ、不思議な幻を見せる。
- 天使がまず告げたのは、間近に迫るイスラエルの苦難メシア到来までの中間時代に起こること。



最後に告げられるのは、世の終わりの主の日の預言

主の目

天上の礼拝



前半・3年半

後半・3年半



教会時代



14万4千人による世界宣教



ユダヤ人大迫害

御国の時代

携拳

反キリストとイスラエルの契約

封印の裁き

ラツパの裁き

反キリストが契約破棄

鉢の裁き

イスラエルの民族的回心

メシア再臨



I. 反キリスト

ダニエル書11章36～45節

ハル・メギドとイズレエル平原

主の日 反キリスト ダニエル11:36

この王*は思いのままにふるまい、すべての神よりも自分を高く上げて大いなるものとし、神々の神に向かって驚くべきことを語る。彼は栄えるが、ついには神の憤りで滅ぼし尽くされる。定められていることがなされるからである。

*反キリスト

■反キリストは、7年の大艱難時代の後半、本性を現し、自らを神として世界に君臨。

➔最後は再臨のメシアに滅ぼされる



主の日 究極の偶像 ダニエル11:37～38

彼は先祖の神々を心にかけず、女たちの慕うものも、どんな神々も心にかけない。すべてにまさって自分を大いなるものとする*からだ。

その代わりに彼は砦の神*をあがめ、金、銀、宝石、宝物をもって、彼の先祖たちが知らなかった神*をあがめる。

*反キリストは自分の像を造って崇めさせる

*反キリスト自身



反キリストこそ、究極の偶像

主の日 拡大する勢力 ダニエル11:39～40

彼は異国の神*の助けによって城壁のある砦を取り、
彼が認める者には栄誉を増し加え、多くのものを
治めさせて、代価として国土を分け与える。

終わりの時に、南の王*が彼と戦いを交える。北の
王は戦車、騎兵、および大船団を率いて南の王を
襲撃し、国々に侵入し、洪水のように通り過ぎる。

*反キリストに力を与えるのは、父サタン

*エジプト、アフリカ諸国か?!



主の日 侵略 ダニエル11:41～42

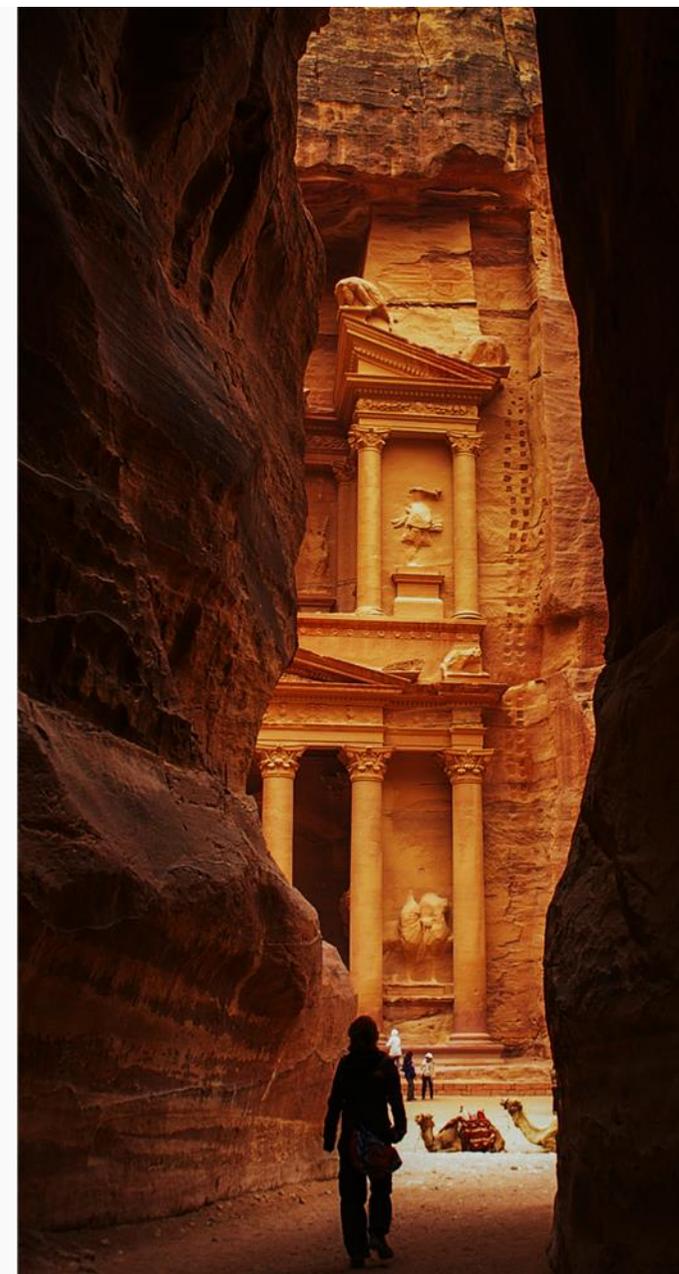
彼は麗しい国*に攻め入り、多くの者が倒れる。しかし、エドムとモアブ、またアンモン人*のおもだった人々は、彼の手から逃げる。

彼は国々に手を伸ばす。エジプトの地もその手を免れることはない。

*イスラエル

*イスラエルの東の国々(現ヨルダン)

…ボツラ(ペトラ)がイスラエルの避難地に



主の日 拡大する戦線 ダニエル11:43～44

彼は金や銀の秘蔵物と、エジプトのすべての宝物を手に入れ、ルブ人*とクシュ人*が彼につき従う。

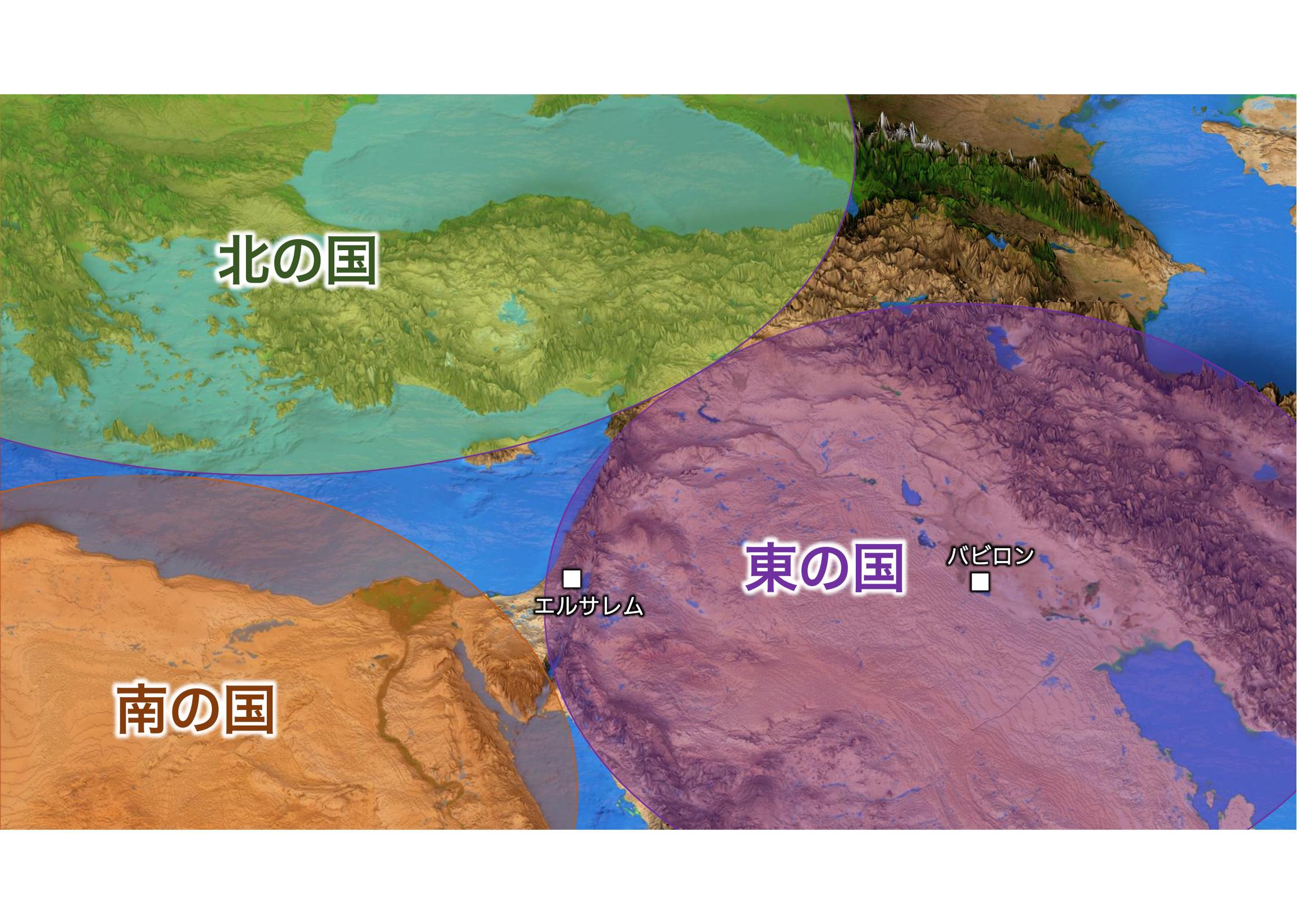
しかし、東と北からの知らせ*が彼をおびえさせる。彼は多くのものを絶滅させようとして、激しく怒って戦いに出て行く。

*ルビア *エチオピア

*侵略したエジプトの東、北？

■反キリストは、十の王国の内、三つをまず支配
(ヨーロッパ？ アフリカ？ 中東？)





北の国

東の国

バビロン

エルサレム

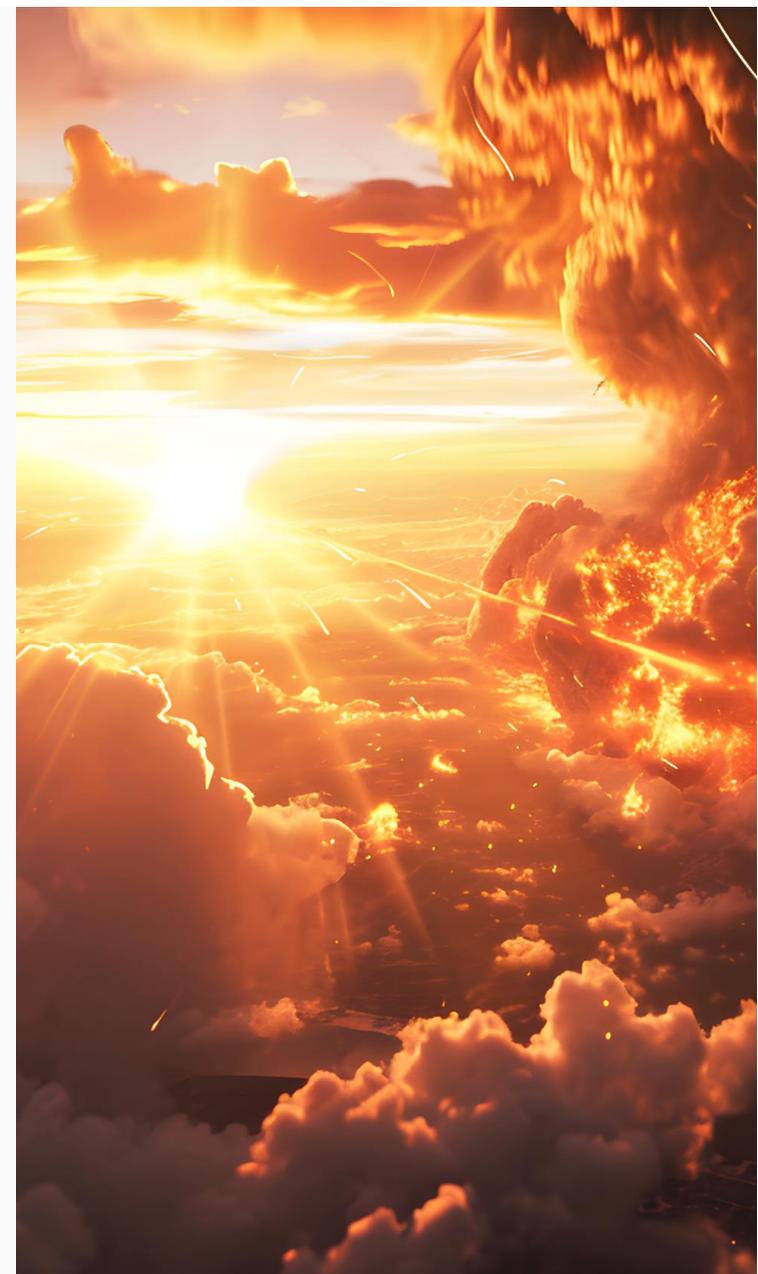
南の国

主の日 反キリストの最期 ダニ11:45

彼は、海と聖なる麗しい山*との間に、本営の天幕を張る。しかし、だれも助ける者はなく、ついに彼は終わりを迎える。

*エルサレム

- ハル・メギドのあるイスラエル平原に世界中の軍を集結(最終戦争/ハルマゲドン)
- エルサレムを陥落。ボツラに攻め込むが…
 - ➔ メシアが再臨し、敗北



終末における反キリスト

時代	反キリストの行動	出来事
前段階	異邦人の中から台頭(北の国・欧州?) 3の王国を支配	世界政府 十の王国
艱難期・前半	イスラエルと7年間の契約 世界の政治的指導者に クリスチャンを迫害。大量の殉教者	世界大宣教 ①封印の裁き ②ラッパの裁き
艱難期・中間期	死んで復活 神殿を汚し、自らが神に 世界を完全に支配。人々に刻印	二人の証人
艱難期・後半	イスラエルへの大迫害 最終戦争(ハルマゲドン) メシアに裁かれ、滅びる	③鉢の裁き メシア再臨



II. 神の王国

ダニエル書12章

ペトラ(ボツラ)

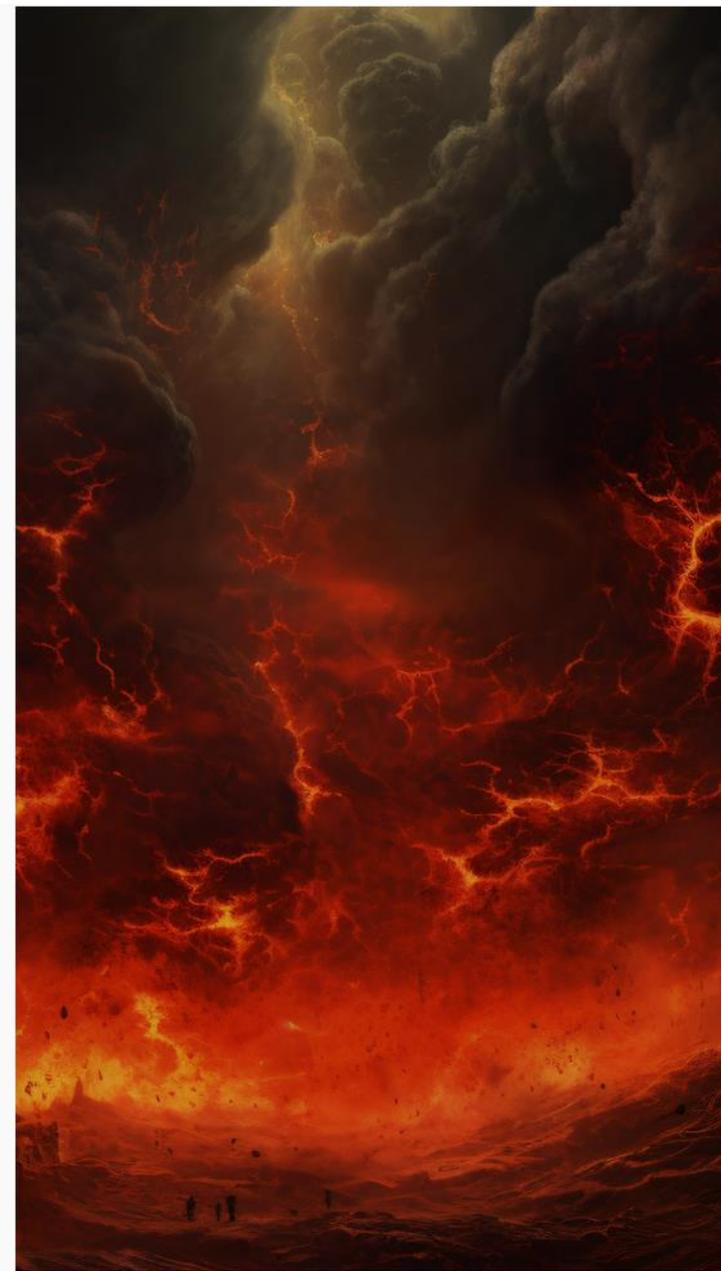
主の日 大艱難 ダニエル12:1

その時、あなたの国の人々を守る大いなる君ミカエル*が立ち上がる。国が始まって以来その時まで、かつてなかったほどの苦難の時*が来る。しかしその時、あなたの民で、あの書に記されている者はみな救われる。

*イスラエルの守護天使ミカエル

■ 艱難期前半後、サタンは、天の軍勢との戦いに負け、地上へ落とされる(黙12章)

➡ 艱難期後半* イスラエルへの大迫害



主の日 二つの復活 ダニエル12:2

ちりの大地の中に眠っている者のうち、多くの者が目を覚ます。ある者は永遠のいのちに、ある者は恥辱と、永遠の嫌悪に。

■ 二つの復活がある

- ① 第一の復活 …… 信仰者
- ② 第二の復活 …… 不信仰者



二つの復活

	対象	タイミング	説明
第一の復活	信仰者	① 携挙時	① 地上のクリスチャン ② 天に召されたクリスチャン
		② 大艱難時代後	① 旧約時代の聖徒たち ② 艱難期の殉教者たち
		③ 千年王国の最後	艱難期の生き残りとその子孫
第二の復活	不信仰者	白い御座の裁き	艱難期までの不信仰者 千年王国時代の不信仰者

主の日 封じられた書 ダニエル12:3~4

賢明な者たちは大空の輝き*のように輝き、多くの者を義に導いた者は、世々限りなく、星のように*なる。

ダニエルよ。あなたは終わりの時まで、このことばを秘めておき、この書を封じておけ。多くの者は知識を増そうと捜し回る。」

*信仰者は、神の栄光に輝く姿に変えられる

■使徒の時代にさらなる詳細が告げられた。

すべて明らかにされるのは、終わりの時



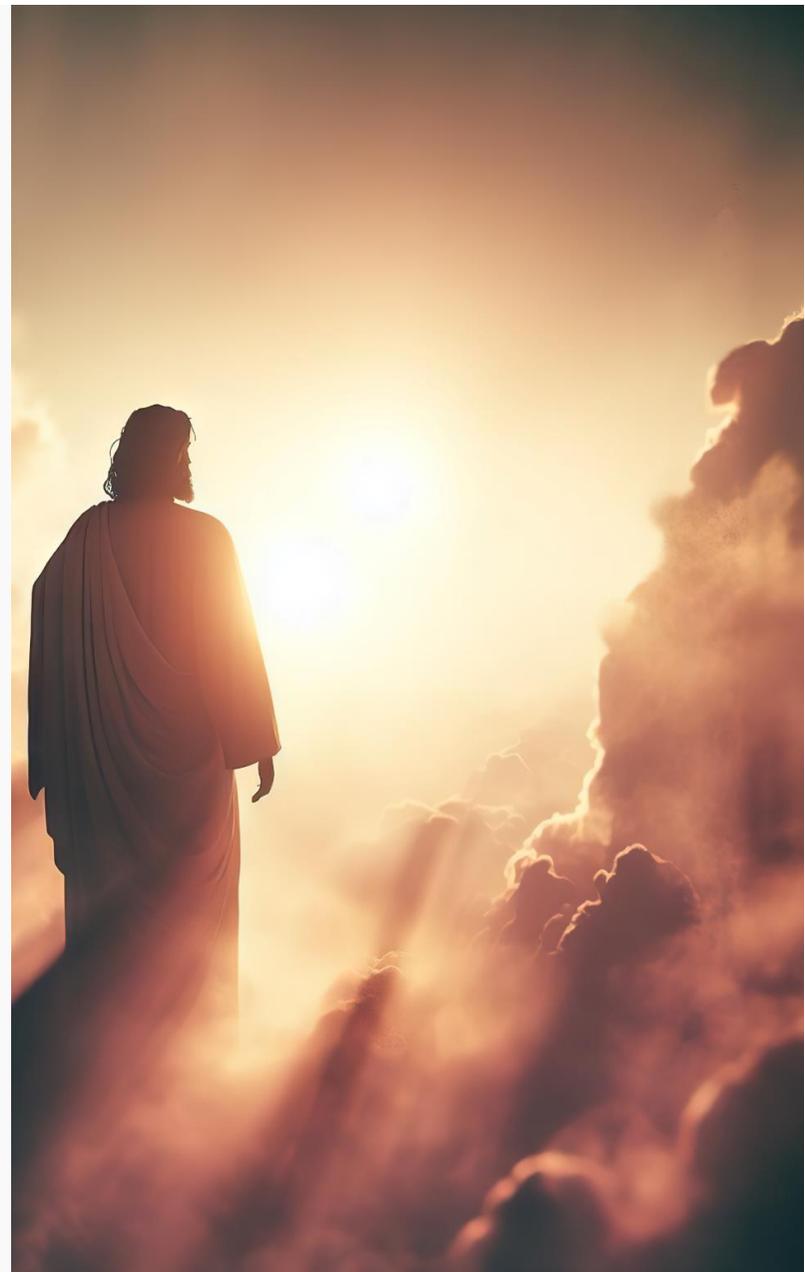
主の日 天使の会話 ダニエル12:5～6

私ダニエルが見ていると、見よ、二人の人*が立っていた。一人は川のこちら岸に、もう一人は川の向こう岸にいた。

その一人が、川の水の上にいる、あの亜麻布の衣を着た人*に言った。「この不思議なことは、いつになると終わるのですか。」

*二人の天使

*イスラエルの守護天使ミカエル



主の日 艱難の後に ダニエル12:7

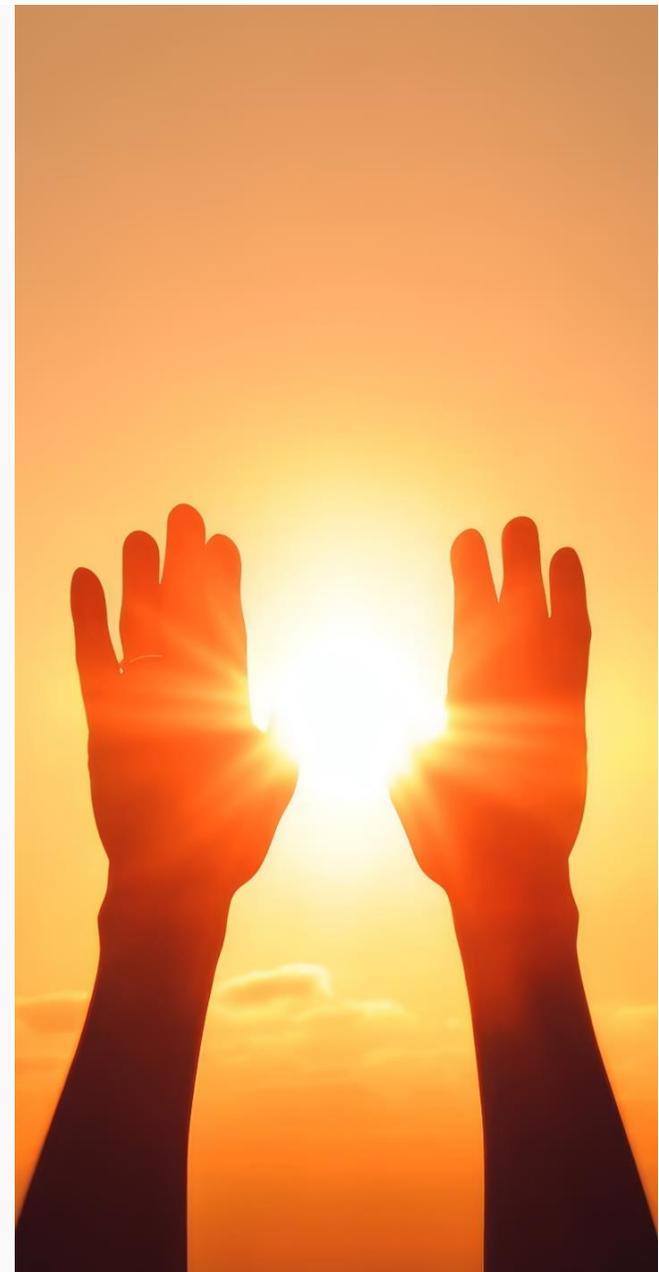
すると私は、川の水の上にいる、あの亜麻布の衣を着た人*が語るのを聞いた。彼はその右手と左手を天に向けて上げ*、永遠に生きる方にかけて誓った。「それは、一時と二時と半時*である。聖なる民の力を打ち砕くこと*が終わるとき、これらすべてのことが成就する。」

*天使ミカエル

*通常は片手を上げる…両手は完全な誓い

*3年半…艱難期後半

*不信仰のイスラエルへの裁き・大艱難時代



主の日 派遣の促し ダニエル12:8~9

私はこれを聞いたが、理解することができなかった。そこで私は尋ねた。「わが主よ、この終わりはどうなるのでしょうか*。」

彼は言った。「ダニエルよ、行け。このことばは終わりの時まで秘められ、封じられているからだ。」

*これ以上の詳細は告げられなかった。

■ダニエルの使命は啓示されたことを告げること

➔信仰者の使命は、明らかにされたことを信じ、伝えるべき人に伝えていくこと

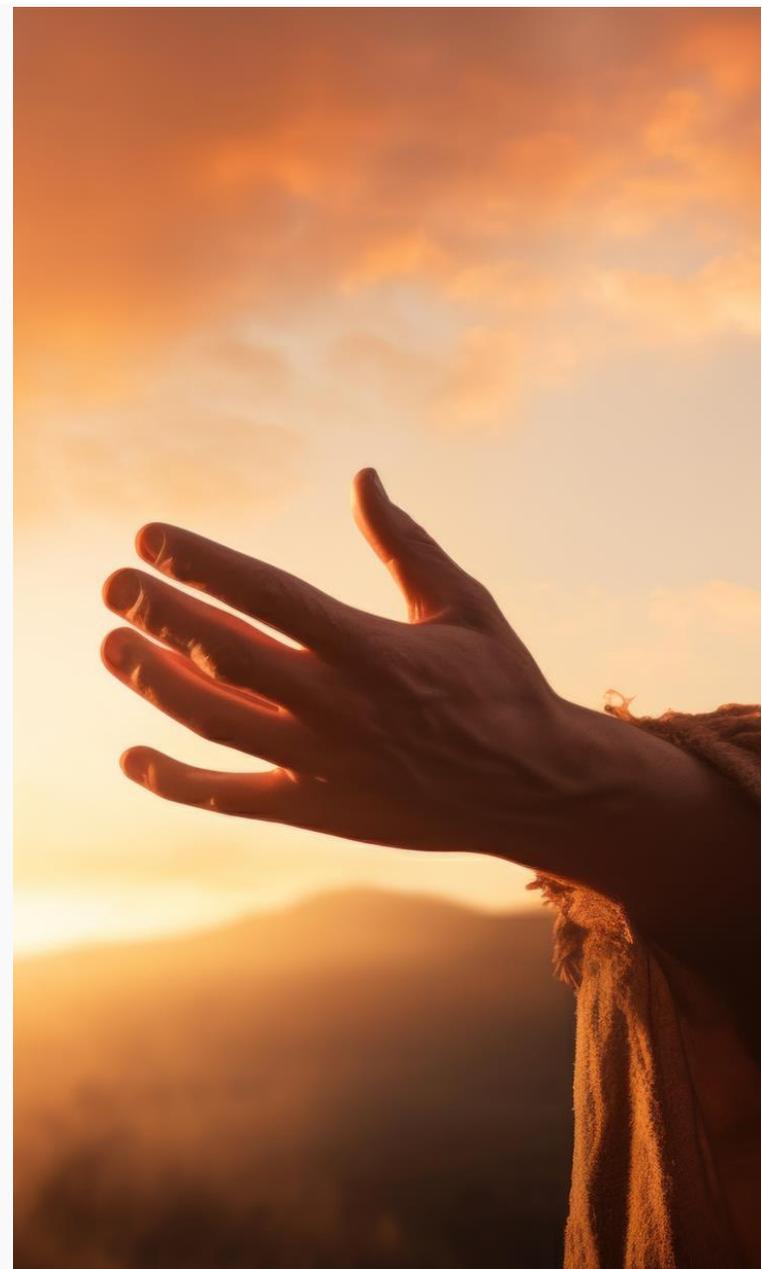


告げるべき
中心が福音

主の日 信者の試練 ダニエル12:10~11

多くの者は身を清めて白くし、そうして錬られる。悪しき者どもは悪を行い、悪しき者どものだれも理解することがない。しかし、賢明な者たちは理解する。

- 地上において、信仰者には**試練**がある。
 - ➔ **聖化**の課程を経て、きよめられていく
- 悪者は、主の計画を理解せず滅びに至る。



主の日 再臨と建国 ダニエル12:11~12

常供のささげ物が取り払われ、荒らす忌まわしいものが据えられる時から、千二百九十日*がある。

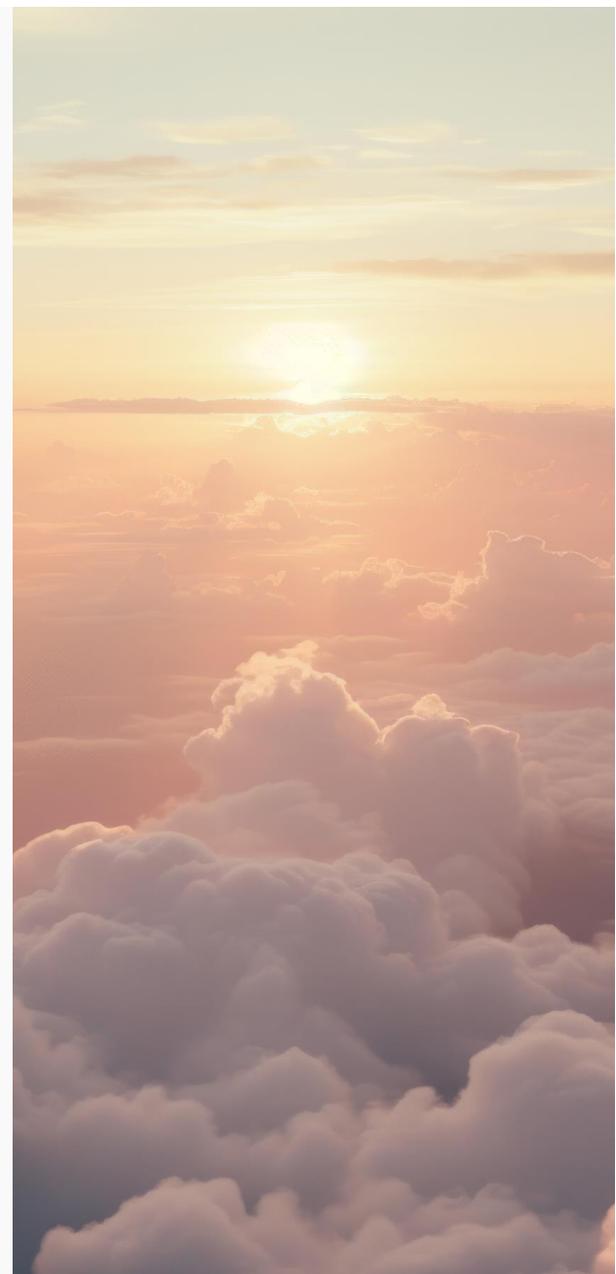
幸いなことよ。忍んで待ち、千三百三十五日*に達する者は。

*1290日 = 1260日(3年半) + 30日

…再臨から偶像が取り除かれるまでが、30日

*1335日 = 1260日(3年半) + 75日

…再臨から千年王国建国までが、75日



主の日 休息と復活 ダニエル12:12~13

あなたは終わるまで歩み、休みに入れ*。あなたは時の終わりに、あなたの割り当ての地*に立つ。」

*生涯を終え、死んで、天に召されよ

…生涯を使命の下に走り終えたダニエル

*各々の信仰に応じた神の王国の割り当て地

■ 80歳を過ぎ、ダニエルは天に召された。

➡ 神の国で、イスラエルは完全に回復

ダニエルにも割り当て地が与えられる





Ⅲ. まとめと適用

私の信仰の痕跡を世に残そう

★終末MAP★



〇〇が反キリスト？ 〇〇が預言の成就？

■反キリストの判別 → 名前をヘブル語換算すると、「666」
→ 出現し、活動を開始して初めて分かる

■ 預言の成就かどうかは、“すべて実現して初めて確認できる”

例) エゼキエル戦争

- ① 北の連合軍による**空前の大侵略**
- ② 神の介入による**超自然的な撃退**
- ③ 敵の遺体処理に**7ヶ月**。残った物資の処理に**7年**。

聖書通りにすべてが起こった後で、はじめて分かること!!

預言の原則と イスラエルを覚えて祈る理由

- 大艱難時代の始まりが、反キリストとイスラエルの7年の契約
 - ➔ イスラエルが、国家という主体を持っているのが大前提
- イスラエル建国(1948年) ➔ 一つの条件は整ったが、が、現イスラエルが、契約を結ぶ主体かどうかは、分からない。
 - ➔ すべてが起こってはじめて確認できる ★預言の大原則★
- 現イスラエルが滅びることがない、とも、断言できない。
 - ➔ エルサレムの平和を覚えて祈り、ささげる大切さ

終末のタイムスケジュール

前段階

北方連合のイスラエル大侵略
世界政府 十の王国に分裂
反キリストの出現

どこかで携挙が!!

艱難期・前半

- ① 封印の裁き
- ② ラッパの裁き

反キリストとイスラエルの契約
14万4千人のメシアニックジューによる世界宣教
クリスチャンの大迫害

艱難期・中間期

二人の証人の活動 死と復活
反キリストが神殿を汚す

艱難期・後半

- ③ 鉢の裁き

イスラエルへの大迫害 …多くがボツラへ避難
最終戦争(ハルマゲドン) …エルサレム陥落
イスラエルの民族的回心
メシア再臨

★ 今、なすべき使命に注力しよう ★

- 携拳(or死)の瞬間まで、福音を述べ伝え、主を証しすること。
残された人々に、信仰の痕跡を残せるように。
- 世がどうであろうとも、落ち着いて生活し、働こう。
地域に関わろう。関係性の中で、福音を伝えられるように。
あなたが主の平安の内に歩む姿そのものが、証しになる。
- 困難であるほど、存在そのものが証しになる → 試練の一側面
世にあって信仰が成長するほど、着実に試練は増していく。
御国の報酬を楽しみに、今この時に力を注ごう。

てん とう つみ
「天のお父さま。わたしの罪をゆるしてください

わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

① わたしの罪を贖うために十字架で死に、

② 墓に葬られ、

③ 三日目に復活したこと、を信じます。

この救いの福音をかかげて、ここから私は遣わされます。

世がどうあろうとも、平安の内に主を証しする者としてください。

信仰者として生きた痕跡を、残すことができますように。

約束された御国の報酬を楽しみに、今この時に力を注ぎ歩みます。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」